

カフェで提供するサンドイッチやパフェなど



高品質ミカンでサンドイッチやパフェなど 生産者しかできない商品を

西ヶ谷 亮志さん、美穂子さん・静岡市



生育状態を確認する
西ヶ谷さん夫妻

【静岡支局】祖父の代から続く農家の3代目である静岡市清水区の西ヶ谷亮志さん(42)。妻・美穂子さん(42)と共に、静岡県で一般的な「青島温州」をはじめ、極早生品種・早生品種から晩生品種まで、20品種以上のミカンを約350坪で栽培している。

約13年前、家業の農家を引き継いだが、当初は思うように売り上げが伸びなかったという。しかし「もっと多くの人に高品質のミカン」という思いから、品

質を第一に考え、販路拡大を目指してきた。

西ヶ谷さんは収穫したミカンのうち「濃い色・濃い味」の厳選した果実を「恋蜜」と名付けたブランドで、通常とは異なるロゴマークを付けて販売する。

2年前に清水区の駅前商店街に直売所をオープン。カフェを昨年併設し、ミカンの味や香り、食感が楽しめるサンドイッチやパフェなどを提供する。現在は、百貨店などに出店する機会も増やしている。商品開発を行う美穂子さんは「生産者だからこそできる商品作りを心がけている」と笑顔で話す。

将来を見据え「地域の土地を守り、持続可能な農業を」と熱意を見せる西ヶ谷さん。次世代の育成にも力を入れており、地元だけでなく都心部などから採用した平均20代の従業員を10人弱雇用している。「今後は農業分野でも世代交代が進み、企業参入も見込まれる。法人化も視野に入れ、店舗を増やしたい」と意欲を示す。

(望月)